



7月の園だより

令和5年7月 富田林市立川西幼稚園

園長 石田 安志

大人になったあなたを支えるのは、子ども時代のあなたです



団欒（だんらん） 変わっていくべきものと変えてはいけないもの

夏至（昼が一番長い日）が終わると、田植えを済ませた農家が少しの休息をとる習慣があります。そこで田植えに関わった人々が集い、団欒する中で、子どもを中心にいろいろな話題に花が咲き、そこから子どもたちは知らない世界を垣間見ます。幼児期の教育はゆったりとした時間の中で、自然や人とふれあい、気づくことで好奇心が育ち、豊かで創造的な学びへと発展します。教育は昔から詰め込みかゆとりかで論争を繰り返してきました。最近の幼児教育においては小学校の教科学習への円滑なつなぎについての必要性をよく語られます。しかし、そこで忘れてはならないのが家庭や幼稚園で日々の暮らしから学ぶということです。大家族の団欒が核家族化によって少なくなり、地域とのつながりが希薄になっています。魚を目の前でさばく魚屋さんも見ない。食事レンジでチン。そして新聞もスマホで見る時代。子どもが暮らしから自然に学ぶ機会が圧倒的に減ってしまいます。幼稚園では、土を耕し、夏野菜の種を植え、水を与え、少しずつ大きく育つ様子を毎日見て、収穫、水洗い、皮むき、包丁で切り、油をしいたフライパンで炒め・・・野菜ゴロゴロカレー作りと実食を楽しみましたが、まだまだ経験不足です。

遊びには、自由で決まりのない良さもありますが、暮らしには、決まりのある良さがあり、一度できるようになると、工夫してどんどんうまくなっていく特徴があります。

小学校以降の学習に向かう力は、幼児期の遊びと暮らしの両方によって形成されるということです。今、全国的に公立幼稚園が保護者のニーズ（働き方）に合わなくなり入園児の人数が減少していますが、幼児教育に必要な創造的な学びと幼児期の豊かさは、今も昔もまったく変わっていません。子どもの学びを支えているのは「二つの自信」です。一つは在ること（存在すること）Beingの自信。もう一つは、成すこと（何かができるようになること）Doingの自信とされています。すなわち、母性「あるがままでいいよ!」の部分から、「ほらっ、おんなじでしょ!失敗してもいいからやってみようよ!」という変化にチャレンジする父性が育つのです。先の見えない時代を生き抜くためにすべきことは、今も昔も日々の暮らしを心豊かに丁寧に取り組むことです。

育てたいこと 7月のねらい

- 3歳児 *好きな遊びを存分に楽しむ中で友達と関わる。
*身のまわりのことを自分でしようとする。
- 4歳児 *友達と一緒に様々な夏の遊びを楽しむ。
*身近な夏の自然を見たり、触れたりして興味をもつ。
- 5歳児 *自分なりに目的をもって活動する中で充実感を味わう
*友達と思いを伝え合いながら活動を進める楽しさを味わう。

★7月生まれのおともだち



すずらん組の子どもたちが
お誕生日でした。